

坂商フェア「セキレ」について



○活動の目的(坂商フェア「セキレ」の概要)

坂商フェア「セキレ」(以下「セキレ」)は、商業、情報の授業で学んだ知識・技術を実践する場として生徒から出資を募り、模擬株式会社の形態で1994年から毎年12月に開催しています。「セキレ」という名称は、校訓の「誠実・勤勉・礼節」の頭文字を取って名付けたものです。他校の文化祭とは違って「販売実習+文化部展、発表」が行われる坂商最大のイベントです。

販売実習では、クラスごとに店舗を企画・運営するデパート形式を採用し、生徒が主体的に、仕入・販売はもちろん、会計処理や展示・装飾、ポスターの制作等、広告と販売促進等を行っています。



ダンス部発表



セキレ株主総会



仕入交渉



店舗マネージャー会



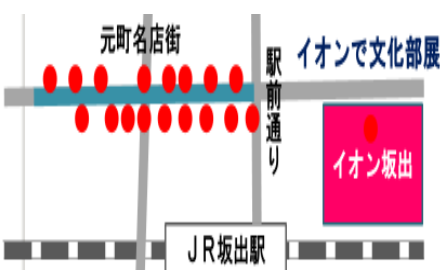
セキレ開始式

○具体的な活動内容

■地元商店街での開催

2009年からは会場を学校から地元の商店街に移し、地域の賑わい作りに貢献するとともに、規模も拡大しより本格的なものとなりました。「セキレ」が地元商店街で実施されるようになってからは、ますます地域との結びつきが強くなり、現在では坂出市恒例の行事としても定着しています。

1年次からビジネスマナーを身につけ、販売商品を地元坂出市内の事業者から仕入れたり、「マーケティング」や「課題研究」の授業で地域の特産物を使った商品開発を行うなど、地域活性化に貢献できるように工夫しています。坂出商店街をはじめとする地域社会は、生徒の活動に協力的で、「セキレ」が地元商店街で開催できるのは、こういった恵まれた環境にあるからです。



坂出商店街に15店舗と多彩な催しを展開



地元産品を利用した商品開発の一例



当日の商店街のようす

■人と人をつなぐ取組み

これまで「セキレ」では農業高校の生徒が育てた農産物や畜産物、水産高校が水揚げしたマグロを仕入れるなど他の高校との連携を図ってきました。一昨年は、新たに特別支援学校の生徒が製作した製品を仕入れて販売しました。「セキレ」で販売することで障がい者への理解を深め、共働する大切さを知り、支援につながっていくきっかけにしたいと思っています。

これらの取組みを通して、学校の垣根を超え、人と人をつないで連携を図り、障がいのある方にも生きがいとやりがいを感じとってもらえるイベントとなるように、地域とともに生きる坂出商業高校として、新しい令和の「セキレ」が動き出すことを目指していきたいと思えます。



水産物販売のようす



農産物販売のようす